

よえもん

2016年10月

第42号

今月のことば

シリーズ
よえもん

おいはぎと先生



(読み聞かせ話)

ある夜、藤樹先生がとなりの村での勉強会から家へ帰るとちゅうのことでした。茂みの中から5、6人のおいはぎが出てきて道をさえぎり「あり金全部出せ。着物も刀もよこせ」と言って刀をひらめかせました。先生は落ち着きはらって「お前たちにたたきやられはならん理由がない。勝負したいなら相手になろう。わたしが負けたらあり金と着物や刀をやろうではないか。わたしは小川村の中江与右衛門だ。さあ、お前たちも名を名乗れ。」と大きな声言いました。これを聞くと男たちは顔色を変え刀を投げ出し、地面に両手をついて頭を下げ、自分たちがしたことを謝りました。

「お前さんたち。悪いと思いたらすぐにでもやめればいいのだ。人は

生まれつき悪い人はいない。これからは良い心を取りもち正しい生活をしなさい。」

こう言うと先生はいっしょに座りこんで、正しい心を持つことの大切さなどをやさしく言いつつ聞かせました。

それ以来、男たちは生まれ変わったようにまじめに働かせるべのやさしい人になったそうです。



「論語」先進第十一書・沢田瑞穂さん

過ぎたるは猶及ばざるがごとし

「ものごとには、てい度というものがあります。し過ぎるのは、てい度過ぎると足りないのと同じようなものです。」という意味です。たとえばまじめは美德ですが、あまりまじめ過ぎると、時には周りのためいにくくなっていることもあるのではないのでしょうか？みんなが幸せになるためには、心の中とりや余裕が大切なものかもしれません。

* 記念館だより *

第30回小企画展 ～藤樹心学を広めた人たち～を平成28年10月4日～平成29年4月2日にかけて開催します。佐藤一齋、大塩平八郎の真筆など他にもたくさん展示してあります。ぜひ、ご来館ください。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL-FAX (0740)-32-0330

